

## 第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	41
基本施策	12	学校教育の充実	評価 責任者	教育振興課長 澤田 朋朗
単位施策	1	小中学校の教育内容の充実		

### 1 施策の概要

基本方針	児童生徒一人ひとりに配慮しながら個性を生かす教育を推進し、基礎・基本を定着させ、自ら学ぶ意欲を引き出す授業を充実するとともに、特別な支援を必要とする児童生徒に対し支援体制を強化します。また、自然体験や職業体験、国際理解教育、情報教育、食育など、地域に根ざした特色のある学習を推進します。			
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）		
	学習指導要領の基本理念である「生きる力」の育成のため、地域や学校の特性を生かした創意ある教育課程の編成をはじめ、学力向上に向けた取り組みの推進が図られている。	各学校の特色を生かした教育活動を展開し、児童生徒が自ら問題を見つけ、自分たちの力で解決していこうとする積極的な姿が見られるようになり、「生きる力の育成」を図ることができた。特別支援教育においてもニーズに応えた支援員の配置による支援が行えたほか、教育支援委員会及び特別支援連携協議会の連携による支援体制の構築が図られた。		
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）		
	全国一斉学力テストの結果にもつじた学校改善プランの確実な実施とともに、特別な支援を必要とする児童生徒の対応について、保育所、小学校、中学校及び高校の接続と連携を強化していく必要がある。	全国学力学習状況調査の結果に基づいた学校改善プランの確実な実施とともに、いじめ、不登校、情報モラル、食育、体力の向上、中1ギャップ等、家庭や地域と連携して解決しなければならない課題に直面している。特別支援教育においても個別のニーズに応じた支援体制を関係機関の連携のもと推進を図る必要がある。		

### 2 基本施策指標

指標1	指標名	全国学力・学習状況調査					
	定義等	「将来の夢や目標を持っている」と回答した人（小学6年生）の割合					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						70.00%
実績値		44.4% (全道66.2%)	61.5% (全道67.8%)	78.0% (全道70.5%)	61.5% (全道68.2%)		
指標2	指標名	全国学力・学習状況調査					
	定義等	「将来の夢や目標を持っている」と回答した人（中学3年生）の割合					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						60.00%
実績値		57.1% (全道46.3%)	45.8% (全道44.8%)	54.5% (全道46.9%)	64.0% (全道45.9%)		
指標3	指標名	全国学力・学習状況調査					
	定義等	「学校の授業以外に普段(月～金)、1日当たり1時間以上勉強している」と回答した人（小学6年生）の割合					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						45.00%
実績値		7.4% (全道41.9%)	25.7% (全道47.3%)	65.8% (全道50.5%)	28.2% (全道51.4%)		
指標4	指標名	全国学力・学習状況調査					
	定義等	「学校の授業以外に普段(月～金)、1日当たり1時間以上勉強している」と回答した人（中学3年生）の割合					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						65.00%
実績値		57.1% (全道63.9%)	45.8% (全道58.8%)	81.7% (全道62.1%)	68.0% (全道61.2%)		
指標5	指標名	特別支援教育支援員					
	定義等	特別支援教育支援員の人数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						2人
実績値		1人	1人	2人	3人		
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	言語治療児童援助事業	教育総務係	254	A	継続/現状維持	A
②	遠距離児童生徒通学費補助事業	教育総務係	0	A	継続/現状維持	B
③	語学指導を行う外国青年招致事業	教育総務係	4,962	A	継続/現状維持	A
④	小中学校教師用指導書購入事業	教育総務係	5,375	A	継続/現状維持	A
⑤	雄武町特別支援教育推進事業	教育総務係	9,077	A	継続/現状維持	A
⑥	ふるさと教員配置事業	教育総務係	3,588	A	継続/現状維持	A
⑦	要保護・準要保護児童生徒援助事業	教育総務係	2,457	A	継続/現状維持	A
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	小中学校の教育内容の充実については、国の教育施策等の動向を見据えながら、義務教育を推進する上で必要不可欠な施策である。
② 有効性	A	少人数・習熟度別学習や放課後の補充学習など、児童生徒の基礎・基本を定着させる授業と自ら学ぶ意欲を引き出す授業の充実により、有効な施策の推進を図った。
③ 効率性	A	小中学校の教育内容の充実のため、最小の経費で最大の効果が得られるよう、財源の配分及び関係事業執行の工夫により、効率的な施策の推進を図った。
④ 公平性	A	義務教育の対象となる児童生徒の全員に受益が及びることから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	小中学校の教育内容の充実については、学校評議員の配置及びPTAとの連携により、町民意見の反映を図っている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直しすることが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
小中学校の教育内容の充実を図るため、関係事業を効果的に進めたことにより、児童生徒の生きる力の育成及び学習意欲の向上が図られており、引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
小中学校の教育内容の充実については、引き続き関係事業を推進していくこととするが、体力向上については一層推進していく必要がある。特別な支援を要する児童生徒への対応については、今後も、教育支援委員会及び特別支援連携協議会の連携のもと、保育所・小中学校・高等学校間の情報共有を図り対応するものとする。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

## 第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	42
基本施策	12	学校教育の充実	評価 責任者	教育振興課長 澤田 朋朗
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実		

### 1 施策の概要

基本方針	北海道教育委員会と連携しながら、研修の充実などにより、教職員等の資質と指導力を向上させるとともに、老朽化した教育施設・設備の計画的な整備・改修や、地域ぐるみの学校安全対策を推進します。			
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）		
	児童生徒の「生きる力」の育成のため、これまで教職員の資質向上等を目的に研修の推進を進めてきており、児童生徒が学ぶ学校施設の整備も計画的に進めてきている。	児童生徒の「生きる力の育成」を図るため、教職員研修への支援を推進した結果、着実に資質向上が図られている。老朽化による機能低下がみられる学校施設について、計画的な修繕を行い改善を図ることができた。学校給食センターについては、安全安心な給食の提供を図るため、学校給食衛生管理基準に適合した施設整備が図られた。		
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）		
	学校施設の老朽化に伴い、今後大規模な改修が必要とされるほか、周辺校の児童減少による学校の維持等に係る対応及び安心安全な給食の提供のため、学校給食衛生管理基準に基づいた学校給食センターの整備を検討していく必要がある。	限られた財源の中で、工法の効率化を図りながらも各学校からの要望に対して必要性、緊急性を勘案し対応しているが、施設の老朽化に関しては根本的な解決には至らず、今後、大規模な改修が必要となっている。		

### 2 基本施策指標

指標1	指標名	特別支援教育支援員					
	定義等	特別支援教育支援員の人数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						2人
実績値		1人	1人	2人	3人		
指標2	指標名	教育相談員					
	定義等	教育相談員の人数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						1人
実績値		0人	0人	0人	0人		
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	山村留学推進事業	教育総務係	700	A	継続/内容の見直し・変更	B
②	教育施設等管理委託業務	教育総務係	27,706	A	継続/現状維持	A
③	小中学校教育備品整備事業	教育総務係	5,809	A	継続/現状維持	A
④	各学校施設修理改修事業	教育総務係	2,393	A	継続/現状維持	A
⑤	生徒教育振興事業	教育総務係	2,037	A	継続/現状維持	A
⑥	学校図書整備事業	教育総務係	1,509	A	継続/現状維持	B
⑦	雄武町学校教育振興推進協議会補助事業	教育総務係	884	A	継続/現状維持	A
⑧	教職員教育振興事業	教育総務係	333	A	継続/現状維持	A
⑨	教育相談員配置事業	教育総務係	0	C	継続/現状維持	D
⑩	学校環境整備事業	教育総務係	30,667	A	継続/現状維持	A
⑪	へき地小学校教員住宅水洗化改修事業	教育総務係	9,968	A	終了	B
⑫	小中学校児童生徒検定チャレンジ促進事業	教育総務係	123	B	継続/現状維持	A
⑬	スクールバス更新事業	教育総務係	17,985	A	継続/現状維持	A
⑭	小中学校AED設置事業	教育総務係	630	A	終了	B
⑮	へき地小学校巡回事務職員配置事業	教育総務係	2,444	A	継続/現状維持	A
⑯	学校給食センター調理業務委託事業	学校給食係	14,126	A	継続/現状維持	A
⑰	学校給食センター建設事業	学校給食係	609,722	A	継続/縮小	A
⑱	学校給食食育推進事業	学校給食係	0	B	継続/内容の見直し・変更	B

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	小中学校の教育環境の充実については、教職員の資質及び指導力向上のほか、教育の拠点施設である学校施設及び学校給食センターに係る施設環境の向上を図ることは重要な施策である。
② 有効性	A	小中学校及び学校給食センターの施設環境の向上により、安全安心な教育環境が整備され、有効な施策の推進を図った。
③ 効率性	A	小中学校及び学校給食センターの整備に当たり、国の交付金をはじめ財源の確保に努め、計画的かつ効率的に施策の推進を図った。
④ 公平性	A	義務教育の対象となるすべての児童・生徒に受益が及ぶことから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	小中学校の教育環境の充実については、学校評議員の配置及び学校給食センター運営委員会の開催等により、町民意見の反映を行っている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直しすることが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
教職員の資質と指導力向上、小中学校の教育環境の充実、学校給食センターの整備を計画的かつ効果的に進めることができた。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
教職員の資質と指導力向上については、現行施策を継続し、小中学校の施設環境の延命化に配慮するとともに、学校給食衛生管理基準に適合した施設における安全・安心な学校給食の提供に努める。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

## 第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	43
基本施策	12	学校教育の充実	評価 責任者	教育振興課長 澤田 朋朗
単位施策	3	開かれた学校づくりの推進		

### 1 施策の概要

基本方針	学校・家庭・地域が連携し、特色ある学校づくりや地域に開かれた学校を推進するため、学校支援活動の推進、PTA活動や学校評議員制度の活性化などに取り組みます。			
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）		
	雄武小学校及び中学校には学校評議員が置かれ、定期的に学校における現況報告等がされているほか、周辺校においても校区内のPTAにおいて地域参画が行われているとともに、読み聞かせやスキー授業の支援など、地域住民等による学校支援活動が行われている。	雄武小・幌内小・豊丘小・共栄小・雄武中には学校評議員が置かれ、定期的に学校における現況報告等が行われている。各校区下のPTAにおける地域参画が図られているとともに、読み聞かせやスキー授業、長期休業期間中に地域住民等による学習支援活動が行われている。		
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）		
	町民の小中学校への参画にあたり、地域全体に対する情報提供により学校活動への関心等が高められることから、地域全体的な周知の取組みを図っていく必要がある。	町民の小中学校への学校運営参画にあたり、地域全体に対する情報提供により学校活動への関心等が高められることから、「何をすべきか」「何ができるのか」という地域全体的な周知の取組みを図っていく必要がある。		

### 2 基本施策指標

指標1	指標名	特別支援教育支援員					
	定義等	特別支援教育支援員の人数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						2人
	実績値		1人	1人	2人	3人	
指標2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						



3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	学校支援活動推進事業	生涯教育係	163	A	継続/現状維持	A
②	【再掲】雄武町特別支援教育推進事業	教育総務係	9,077	A	継続/現状維持	A
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	開かれた学校づくりの推進については、関係法令の要請もある中、学校に対する地域住民の参画推進を図る上で重要な施策である。
② 有効性	A	学校評議員の配置、各校下における活発なPTA活動及び学校支援活動推進事業等により、有効に施策の推進を図った。
③ 効率性	A	開かれた学校づくりの推進のため、地域住民によるボランティアでの活動が実施されており、効率的な施策の推進を図った。
④ 公平性	A	本施策において、町民誰もがボランティアによる学校支援に参画することができるとともに、小中学校施設の学校開放利用の地域住民との情報共有も図られることから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	開かれた学校づくりの推進については、学校評議員やPTA等の意見が反映されている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
開かれた学校づくりの推進を図るため、関係事業の効果的な実施及び必要な支援を進めてきたところであり、引き続き、現行施策の推進を図ることが必要である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
学校・家庭・地域が連携し、特色ある学校づくりや地域に開かれた学校づくりを推進していくため、現行施策を引き続き継続するとともに、今後も全学校の状況について、本町全体に情報発信していくこととする。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

## 第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	44
基本施策	12	学校教育の充実	評価 責任者	教育振興課長 澤田 朋朗
単位施策	4	不登校等の子どもたちへのサポートの推進		

### 1 施策の概要

基本方針	いじめや不登校などに迅速・的確に対応するため、学校、家庭、地域の緊密な連携のもと、相談・指導を強化します。			
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）		
	学校、家庭、地域の連携により、不登校やいじめ等への対応が強化されてきている。	いじめや不登校は生徒指導上、大きな教育課題となっており、体調不良・生活習慣の乱れ等から不登校が生じているが、学校・家庭・地域連携による対応強化のもと、解決に向かっている。いじめについては、アンケート調査による該当報告はあるものの、各学校では「いじめ防止基本方針」を策定し、児童生徒からの確認及び指導により解決している。		
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）		
	不登校やいじめ等の対応について、迅速・的確に対応するため、学校、家庭、地域の緊密な連携のもと、相談・指導を強化していく必要があり、特に教育相談員については、未配置となっていることから、早期の人材確保を図っていく必要がある。	いじめや不登校は、心身の発達の悩み、友人や家庭関係、進路上的の悩み、ネットトラブルなど多様化しており、いつ何時起こりうるか予測できなく、迅速・的確に対応するため、学校・家庭・地域の緊密な連携のもと、相談・指導体制を強化していく必要がある。特に教育相談員は未配置となっていることから、引き続き人材確保を図りつつ、民生児童委員等の関係機関との連携が必要である。		

### 2 基本施策指標

指標1	指標名	教育相談員					
	定義等	教育相談員の人数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						1人
	実績値		0人	0人	0人	0人	
指標2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	【再掲】雄武町学校教育振興推進協議会補助事業	教育総務係	884	A	継続/現状維持	A
②	【再掲】教育相談員配置事業	教育総務係	0	C	継続/現状維持	D
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	不登校等の児童生徒へのサポートについては、日々の生徒指導上の対応が重要であり、小1プロブレム及び中1ギャップへの対応を図る上で重要な施策である。
② 有効性	B	教育相談員が未配置ではあるものの、諸課題に対して教育委員会・学校・民生児童委員が連携して対応策を検討するとともに、学校と家庭との面談等により改善措置を講じることができた。
③ 効率性	B	教育相談員の未配置により予算支出は伴わなかった。各学校においては「いじめ防止基本方針」の策定、校内委員会、校内における教育相談、民生児童委員との連携により、効率的な対応が図られた。
④ 公平性	A	義務教育の対象となるすべての児童生徒が当事者となる可能性もあり、その対策のための施策であることから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	不登校等の児童生徒へのサポートについては、学校評議員の配置及びPTA活動等により、町民意見の反映を行っている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
教育相談員が未配置ではあるものの、諸課題に対して教育委員会・学校・民生児童委員が連携して対応策を検討するとともに、学校と家庭との面談等により改善措置を講じることができた。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
いじめや不登校は、心身の発達に伴い、友人や家庭関係、進路上的悩み、ネットトラブルなど多様化しており、いつ何時起こりうるか予測できなく、迅速・的確に対応するため、学校・家庭・地域の緊密な連携のもと、相談・指導体制を強化していく必要がある。特に教育相談員は未配置となっていることから、引き続き人材確保を図りつつ、民生児童委員等の関係機関との連携が必要である。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止



## 第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	45
基本施策	12	学校教育の充実	評価 責任者	教育振興課長 澤田 朋朗
単位施策	5	高校への継続的な支援		

### 1 施策の概要

基本方針	雄武高校については、通学費等や部活動への補助及び資格取得に係る助成を引き続き実施するとともに、高校存続のため魅力ある学校づくりを推進します。			
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）		
	雄武高等学校の存続対策及び人材育成を目的とした町外生徒への通学費等及び部活動に対する補助制度並びに生徒の資格取得に係る助成制度は、同校の存続対策や魅力ある学校づくりへの推進に寄与している。	雄武高等学校の存続対策及び人材育成を目的とした町外生徒への通学費等及び部活動に対する補助制度並びに生徒の資格取得や進学対策に係る助成制度は、同校の存続対策や魅力ある学校づくりへの推進に寄与している。		
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）		
	雄武高等学校の存続対策として町外生徒への通学費等補助制度を堅持しつつも、補助対象生徒の絶対数の減少等により、本制度による生徒確保の効果が及ばないことも懸念されるため、次善の策の検討とともに、道教委の方向等について留意していく必要がある。	雄武高等学校の存続対策として町外生徒への通学費等補助制度を堅持しつつも、補助対象生徒の絶対数の減少等により、本制度による生徒確保の効果が及ばないことも懸念されるため、次善の策の検討とともに、道教委の方向等について留意していく必要がある。		

### 2 基本施策指標

指標 1	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	雄武高等学校存続対策事業	教育総務係	0	B	継続／統合	B
②	雄武高等学校振興事業	教育総務係	5,023	A	継続／統合	B
③	雄武高等学校生徒資格取得支援助成事業	教育総務係	56	A	継続／統合	A
④	雄武高等学校生徒進学支援対策事業	教育総務係	500	A	終了	A
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	雄武高等学校を地域の学校として存続させるためには、入学者の減少の抑制や魅力ある学校づくりを推進することが重要であり、引き続き行政の支援が必要である。本施策を実施しない場合、町外生徒の入学者数が減少し生徒数が確保されず、高校存続にも影響を及ぼすことが想定される。
② 有効性	B	施策を構成する各事務事業は概ね計画どおり進捗しているが、雄武中学校卒業生はもとより、他町からの入学者の確保において、施策内容の見直しが必要である。
③ 効率性	B	施策を構成する各事務事業による継続支援は必要であるが、学校におけるPR活動をはじめとする生徒の確保活動と行政による支援内容の見直しを施策の両輪として有機的に進める必要がある。
④ 公平性	A	本施策の推進にあたっては、地元の高校を存続させることが、町の活性化に寄与すると判断されることから、公平性は確保されるものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	本施策の推進にあたっては、地域の高校を存続させる観点から、議会及び町民理解のもと実施している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
雄武高等学校における魅力ある学校づくりを推進し、地域の学校として存続するための支援である必要があるが、生徒数を確保するにあたり、課題が残る。	同 左	

今後の方向性



継続／内容の見直し・変更	継続／内容の見直し・変更	継続／内容の見直し・変更
北海道が策定する「公立高等学校配置計画」の今後の動向に注視するとともに、雄武高等学校の存続を図るためには、生徒数を維持することが必要であり、進学・就職・運動部活動に対する総合的な施策内容の見直しが必要である。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

## 第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	46
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	評 価 責 任 者	教育振興課長 澤田 朋朗
単位施策	1	推進体制の強化		

### 1 施策の概要

基本方針	生涯学習・生涯スポーツ推進体制を強化するため、多様な媒体を通じた情報発信や、指導者の養成、広域連携の強化、さらには家庭教育への支援を進めます。			
現状と課題	【現状】（平成23年度末）		【現状】（平成26年度末）	
	住民のニーズなどに沿った学習・スポーツの機会が持てるように、各種講座やイベント等の開催、文化連盟・体育連盟の各種自主活動の支援などを進めている。		住民のニーズなどに沿った学習・スポーツの機会が持てるように、各種講座やイベント等の開催、文化連盟・体育連盟の各種自主活動の支援などを進めている。	
	【課題】（平成23年度末）		【課題】（平成26年度末）	
	指導者の育成・確保や活動施設の確保、わかりやすい情報の提供などを通じて、「いつでも・どこでも・だれでも」が学び、スポーツを楽しむまちづくりを進めていくことが必要であり、住民一人ひとりに対して、より裾野を広げていく必要がある。		指導者の育成・確保や活動施設の確保、わかりやすい情報の提供などを通じて、「いつでも・どこでも・だれでも」が学び、スポーツを楽しむまちづくりを進めていくことが必要であり、町民一人ひとりに対して、より裾野を広げていく必要がある。	

### 2 基本施策指標

指標 1	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 2	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 3	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 4	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 5	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 6	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 7	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	社会体育団体活動費助成事業	生涯教育係	540	A	継続/現状維持	A
②	【再掲】社会教育関係団体活動費補助事業	生涯教育係	650	A	継続/現状維持	A
③	【再掲】家庭教育推進事業	生涯教育係	211	B	継続/現状維持	B
④	【再掲】スポーツ大会推進事業	生涯教育係	315	B	継続/現状維持	B
⑤	【再掲】雄武町スポーツ振興事業	生涯教育係	181	A	継続/現状維持	A
⑥	【再掲】スポーツ教室推進事業	生涯教育係	530	A	継続/現状維持	A
⑦	【再掲】スポーツイベント参加助成金	生涯教育係	127	A	継続/現状維持	A
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	生涯学習・生涯スポーツの推進体制の強化については、生涯にわたる学習及びスポーツを行う機会の確保等を図る上で重要な施策である。
② 有効性	B	少子高齢化等を背景に人口減少傾向にある中、施策を構成する各事務事業は概ね計画どおりに進捗しているが、あらゆる年齢階層が参加しやすい、興味をもたれる基盤づくりの見直し・確立が必要である。
③ 効率性	B	本施策については、生涯教育・生涯スポーツにおける自助・共助・公助の考え方により、行政は町民や団体への活動する環境への支援を行っており、町民主体による概ね効率的な施策の推進を図った。
④ 公平性	A	本施策の効果は、町民全体に及ぶことから公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	生涯学習・生涯スポーツの推進体制強化については、社会教育委員の会議等の意見を取り入れながら対応を図っている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直しすることが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
生涯学習・生涯スポーツの推進体制の強化については、町民主体の社会教育団体及び社会体育団体活動への支援、町民参加の機会を提供しているが、あらゆる年齢階層が参加しやすい、興味をもたれる基盤づくりの見直し・確立が必要である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
生涯学習・生涯スポーツの推進体制については、引き続きその強化を進めることで、生涯にわたる学習及びスポーツを行う町民の割合を向上させていく必要があることから、本施策を継続するとともに、あらゆる年齢階層が参加しやすい、興味をもたれる基盤づくりの見直し・確立が必要である。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

## 第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	47
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	評価 責任者	教育振興課長 澤田 朋朗
単位施策	2	学習・スポーツ活動の推進		

### 1 施策の概要

基本方針	町民一人ひとりの学習・スポーツニーズに応じた多様な講座・講演会・イベント等を開催します。また、自主サークルを活性化するとともに、学習・スポーツの成果発表の機会を拡大します。さらに、町内でのスポーツ合宿等の受け入れに向けた研究を進めます。			
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）		
	生涯を通じ学習やスポーツの関わりを持たせるため、住民の年齢層に適応した機会の創出を図るとともに、スポーツイベント参加者に対し助成を行い、スポーツ活動の促進を図っている。	生涯を通じ学習やスポーツの関わりを持たせるため、町民の年齢層に適応した機会の創出を図るとともに、スポーツイベント参加者に対し助成を行い、スポーツ活動の促進を図っている。		
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）		
	「いつでも・どこでも・だれでも」が学び、スポーツを楽しむまちづくりを持続的に進めていくために、今後も指導者の育成等を図っていく必要がある。また、住民参加率の向上を図るため、住民が参加しやすい環境の工夫も必要となっている。	「いつでも・どこでも・だれでも」が学び、スポーツを楽しむまちづくりを持続的に進めていくために、今後も指導者の育成等を図っていく必要がある。また、住民参加率の向上を図るため、住民が参加しやすい環境の工夫も必要となっている。		

### 2 基本施策指標

指標1	指標名	町主催学習講座の参加率					
	定義等	町民大学等への住民の参加率（まちづくりアンケート）					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						30%
	実績値		18.65%	-	-	-	
指標2	指標名	週に1回以上、スポーツ活動を行う住民の割合					
	定義等	住民のスポーツ活動の参加割合（まちづくりアンケート）					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						70%
	実績値		48.65%	-	-	-	
指標3	指標名	町主催スポーツ講座の参加率					
	定義等	スポーツ講座の住民参加率（まちづくりアンケート）					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						30%
	実績値		16.01%	-	-	-	
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						



3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	生涯学習推進事業	生涯教育係	400	A	継続/現状維持	A
②	スポーツ大会推進事業	生涯教育係	315	B	継続/現状維持	B
③	雄武町スポーツ振興事業	生涯教育係	181	A	継続/現状維持	A
④	スポーツ教室推進事業	生涯教育係	530	A	継続/現状維持	A
⑤	スポーツイベント参加助成金	生涯教育係	127	A	継続/現状維持	A
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	学習・スポーツ活動の推進については、町民の世代層に応じた生涯学習や生涯スポーツの機会を提供していくうえで重要な施策である。
② 有効性	B	本施策の実施により、生涯学習や生涯スポーツへの一定の参加はみられるものの、活動している団体・階層が固定化している傾向があり、あらゆる年齢階層が参加しやすい・興味をもたれる基盤づくりの見直し・確立が必要である。
③ 効率性	B	施策を構成する各事務事業において、適正な事業予算執行のもと、学習・スポーツ活動の機会の提供を確保するとともに、町民に対する周知啓蒙を行っているものの、町民自身の参加意識に拠るところが大きいこともあり、あらゆる年齢階層が参加しやすい・興味をもたれる基盤づくりの見直し・確立が必要である。
④ 公平性	A	本施策の効果は、町民全体に及ぶことから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	学習・スポーツ活動の推進については、社会教育委員の会議等の意見を取り入れながら、対応を図っている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直しすることが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
本施策の実施により、生涯学習や生涯スポーツへの一定の参加はみられるものの、活動している団体・階層が固定化している傾向があり、あらゆる年齢階層が参加しやすい・興味をもたれる基盤づくりの見直し・確立が必要である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
学習・スポーツ活動の推進については、町民が参加しやすい・興味をもたれる環境が必要であることから、本施策を継続するとともに、活動の裾野を広げるべく、町民アンケートの実施も視野に入れ、基盤づくりの見直し・確立が必要である。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	48
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	評価責任者	教育振興課長 澤田 朋朗
単位施策	3	青少年教育の推進		

1 施策の概要

基本方針	非行防止など、青少年健全育成活動を活性化するとともに、青少年の創造性をまちづくりに活かすため、子ども会やスポーツ少年団、青年まちづくり組織などの活性化を支援します。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	青少年の創造性と情熱をまちづくりに活かすため、子ども会やスポーツ少年団等の活動により、青少年教育の推進が図られている。	青少年の創造性と情熱をまちづくりに活かすため、子ども会やスポーツ少年団等の活動により、青少年教育の推進が図られている。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	青少年健全育成活動等を進めていくうえで、地域全体が子どもたちを育てて行くという観点が必要であり、町内の子ども会指導者の参画のもと、より多くの子どもたちの参加を促進していく必要がある。	青少年健全育成活動等を進めていくうえで、地域全体が子どもたちを育てて行くという観点が必要であり、町内の子ども会指導者の参画のもと、より多くの子どもたちの参加を促進していく必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	青少年健全育成活動の年間実施回数（民間・行政）					
	定義等	青少年の健全育成を目的とした活動回数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		8回	7回	7回	8回	12回(H25~29平均)
指標2	指標名	子ども会の会員割合					
	定義等	子ども会の加入数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		37%	39%	44%	44%	40%
指標3	指標名	スポーツ少年団員数の割合					
	定義等	スポーツ少年団の加入割合					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		19.52%	16.46%	15.56%	15.12%	20%
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	武雄市児童交流事業	生涯教育係	2,653	A	継続/現状維持	A
②	家庭教育推進事業	生涯教育係	211	B	継続/現状維持	B
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	青少年教育の推進については、非行防止をはじめ、青少年の健全育成を図るうえで重要な施策である。
② 有効性	B	本施策の実施により、関係事業のほか、あいさつ運動等の日常的な取り組みにより、非行等の問題が生じていないことから、概ね有効に施策の推進を図った。
③ 効率性	B	本施策については、関係事業のほか、日常的な活動中で行われており、概ね効率的な施策の推進を図った。
④ 公平性	A	本施策の効果は、対象となる青少年全体に及ぶことから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	青少年教育の推進については、PTA及び町子ども育成会等により対応している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
青少年教育の推進については、日常的な活動を含む効果的な事業の実施により、健全な青少年教育が図られていることから、引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
青少年教育の推進については、青少年の健全育成を図る必要があることから、本施策を継続していくものとする。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

## 第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	49
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	評価 責任者	教育振興課長 澤田 朋朗
単位施策	4	図書サービスの充実		

### 1 施策の概要

基本方針	ニーズに応じて蔵書・資料を充実するとともに、ブックスタート・学校配本や移動図書館の推進など、町民が利用しやすい図書館機能の充実を進めます。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	図書館利用者の利便性の向上と図書の貸出冊数の増加を進めるため、図書館司書によるサービスの向上、平日の開館時間の拡大及び蔵書数の増加により、図書館環境の向上を図っている。	図書館利用者の利便性の確保と図書の貸出冊数の増加を推進するため、司書による各種サービスの向上、企画展示の開催、図書の計画的な購入のほか、業務の効率化のための改善を図り、図書館環境の向上を推進している。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	蔵書・資料の充実に伴う開架スペースや閲覧・読書スペースの狭隘化など、利用者が読書活動や学習を行う環境整備を図っていく必要がある。	蔵書・資料の充実に伴う開架スペースや閲覧・読書スペースの狭隘化の解消など、利用者が読書活動や学習を行う環境整備を図っていく必要がある。

### 2 基本施策指標

指標1	指標名	図書の町民1人あたり年間貸出し数					
	定義等	町民の図書貸出数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						10冊(H25~29平均)
	実績値		5.7冊	5.9冊	6.8冊	7.0冊	
指標2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	読書促進事業	図書業務係	3,970	B	継続/現状維持	B
②	雄武町図書館建設事業	図書業務係	0	B	継続/現状維持	B
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	図書館は、これからのまちづくり・生涯学習の拠点となる施設であり、図書サービスの充実については、町民に対する学習等の機会を提供していく上で重要な施策である。
② 有効性	B	蔵書・資料の充実や司書による各種サービスの向上、企画展示の開催等により利用者も増加し、貸出冊数も増加傾向にあるが、施策を構成する各事務事業においては目標を達成することが出来なかった。
③ 効率性	A	図書の整備に当たっては、施設の現状を踏まえ冊数の調整を図り計画的に購入しているほか、寄贈により充実を図っている。そのほか、図書購入の際、装備後に納品されるよう改善し、配架に期間を要しないよう効率化を図っている。
④ 公平性	A	図書サービスの充実については、すべての町民を対象としていることから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	図書サービスの充実については、社会教育委員の会議のほか、図書館利用者のリクエストに応えている。新たな図書館整備の提言の取りまとめに際し、雄武町図書館を考える会を設置し、町民各層から構成される委員の意見を反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
図書館の利用者数や貸出冊数は増加傾向となっており、生涯学習としての町民の学ぶ機会・空間の提供ができていることから、引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同 左	

今後の方向性



継続/拡充	継続/拡充	
図書の整備については、現行施策を継続し、貸出冊数の増加を図っていくこととし、雄武町図書館を考える会からの提言を尊重した基本計画を策定の上、新図書館の整備を推進していくものである。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止



## 第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	50
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	評価 責任者	教育振興課長 澤田 朋朗
単位施策	5	生涯教育施設・備品の有効活用		

### 1 施策の概要

基本方針	既存の施設・備品を有効に活用するとともに、地域住民の協力による管理・運営を進めます。また、老朽化や安全面による施設・備品の管理、維持更新が求められており、多様化するニーズに適った施設整備・備品配置を進めます。					
現状と課題	【現状】（平成23年度末）			【現状】（平成26年度末）		
	生涯学習・生涯スポーツの推進拠点となる社会教育及び社会体育施設については、既存施設等の有効活用をいっつつ、地域団体等による管理運営を進めている。			生涯学習・生涯スポーツの推進拠点となる社会教育施設及び社会体育施設については、必要な修繕等による既存施設等の有効活用をいっつつ、適切な管理運営に努めている。		
	【課題】（平成23年度末）			【課題】（平成26年度末）		
	社会教育・社会体育施設については、適切な維持管理を行っているが、人口構成やニーズの変化等に適応する施設整備等が求められる。			社会教育施設・社会体育施設については、適切な維持管理に努めているが、人口構成やニーズの変化等に適応する施設整備等が求められている。		

### 2 基本施策指標

指標 1	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	社会体育施設委託業務事業	生涯教育係	6,964	A	継続/現状維持	A
②	スポーツセンター整備事業	生涯教育係	0	B	継続/現状維持	B
③	テニスコート施設整備事業	生涯教育係	913	A	終了	A
④	風の丘スキー場設備整備事業	生涯教育係	2,160	A	終了	A
⑤	パークゴルフ場整備事業	生涯教育係	1,858	A	継続/現状維持	A
⑥	【再掲】雄武町図書館建設事業	図書業務係	0	C	継続/現状維持	C
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	社会教育施設及び社会体育施設の有効活用については、町民に対する活動の場の提供と活動の促進を図っていくうえで重要な施策である。
② 有効性	A	施設・備品の有効活用については、各種団体への積極的な使用を進めているほか、適切な管理運営の促進により、有効に施策の推進を図った。
③ 効率性	A	施設・備品については、適切な維持管理を行っているとともに、町内業者への民間委託等により、効率的な施策の推進を図った。
④ 公平性	A	施設等を活用する対象は、町民全体に及びことから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	社会教育施設及び社会体育施設等の有効活用については、社会教育委員の会議のほか、社会教育団体及び体育団体等の意見を取り入れながら、対応を図っている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
施設・備品の有効活用については、施設等の適切な維持管理等により、町民の生涯学習及び生涯スポーツの促進が図られていることから、引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
施設の管理運営については、現行施策を維持しながら進めていくこととし、今後、町民の人口構成やニーズの変化等に適応した施設整備について検討を進めていくものとする。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	51
基本施策	14	芸術・文化の振興	評価責任者	教育振興課長 澤田 朋朗
単位施策	1	歴史文化の保存と継承		

1 施策の概要

基本方針	町内の貴重な歴史文化遺産や史料を後世に継承していくため、文化財指定制度を検討するとともに、調査研究、発掘・記録収集、保存措置、町民への周知、収蔵・展示施設の設置などを系統的に進めます。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	本町の歴史については、古くは竪穴住居群などの埋蔵文化財のほか、寄贈を含めた郷土資料についても歴史的価値の高い遺産として、施設に保管されているとともに、町広報誌による一般供覧化を図っている。	本町の歴史については、古くは竪穴住居群などの埋蔵文化財のほか、寄贈を含めた郷土資料についても歴史的価値の高い遺産として施設に保管されている。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	歴史や文化に対する住民意識は高まりを見せてきているが、郷土資料については、保管並びに広報誌での一般供覧化にとどまっており、展示スペースの確保を図る必要がある。	歴史や文化に対する町民意識は高まりを見せてきているが、郷土資料については、広報誌での紹介も行われたが、現時点においては保管にとどまっており、展示スペースの確保を図る必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名							
	定義等							
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）	
	目標値							
	実績値							
指標2	指標名							
	定義等							
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）	
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）	
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）	
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）	
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）	
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）	
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	郷土資料保存・展示調査事業	生涯教育係	0	C	継続/内容の見直し・変更	C
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	B	町民に郷土の歴史に誇りを持ってもらい、後世に継承していく上で必要な施策である。
② 有効性	C	直接的に効果が発現する取組みが弱かったことから、歴史文化を啓発していく方法を検討するとともに、効果的な資料整理や展示方法についても検討する必要がある。
③ 効率性	C	直接的に効果が発現する取組みが弱かったことから、効率的な資料整理や展示方法についても検討する必要がある。
④ 公平性	C	本施策については、町民全般に供覧可能な状態にはないが、町広報紙における紹介も行われた経緯があり、今後、資料整理や展示方法の検討と併せ、情報発信を推進する必要がある。
⑤ 町民意見の反映	C	歴史文化の保存継承については、社会教育委員の会議等の意見を取り入れているが、今後町民から広く意見を取り入れていく必要がある。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
D	D	
歴史文化の保存継承について、直接的に効果が発現する取組みが弱かったことから、必要な見直しを行いつつ、郷土資料の展示について推進を図るものとする。	同 左	

今後の方向性

継続/内容の見直し・変更	継続/内容の見直し・変更	
郷土資料の保存について、計画的な施策展開事業の検討を行うとともに、展示については、資料の整理を推進した上で図書館での展示についての検討を併せて進めていくものとする。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	52
基本施策	14	芸術・文化の振興	評価 責任者	教育振興課長 澤田 朋朗
単位施策	2	芸術・文化活動の促進		

1 施策の概要

基本方針	映画や音楽、演劇等の鑑賞会など、町民が身近に優れた芸術・文化にふれる機会を充実させていくとともに、陶芸など、町民の自主的な芸術・文化活動を支援します。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	映画や音楽、演劇等の鑑賞会など、住民が身近に優れた芸術・文化にふれる機会の充実と住民の自主的な芸術・文化活動の支援を行っている。	保育所児から一般を対象とする幅広い年齢層へ映画や音楽、演劇等を鑑賞する機会の提供により、高い関心を得ることができた。各文化団体へ補助金を交付することで、安定した運営に寄与したほか、町民の創作活動を支援し活動の場を広げていくことで、芸術・文化の振興に寄与することができた。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	住民が優れた芸術や文化にふれることで、住民自らが積極的な文化活動等への参加促進が求められる。	町民がより高い関心を持てる参加・体験型のプログラムなど、幅広い年齢層への多様な芸術・文化事業を計画的に実施するとともに、積極的な情報発信による町民の自主的な文化活動等への参加促進が求められる。

2 基本施策指標

指標1	指標名	町内での芸術・文化鑑賞の機会の年間延回数					
	定義等	芸術・文化鑑賞機会の年間回数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		5回	4回	5回	3回	10回
指標2	指標名	おうむ陶芸工房の年間延利用者数					
	定義等	陶芸工房の利用者数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		424人	568人	546人	792人	600人
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						



3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	芸術文化公演事業	生涯教育係	1,200	A	継続/現状維持	A
②	陶芸推進事業	生涯教育係	842	A	継続/現状維持	A
③	社会教育関係団体活動費補助事業	生涯教育係	650	A	継続/現状維持	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	芸術・文化活動の促進については、町民の文化意識の高揚と自主的な活動促進を図る上で重要な施策である。
② 有効性	A	本施策の実施により、芸術・文化に対する町民意識が高まっていると判断される。
③ 効率性	A	本施策における事業展開については、限られた財源の中、各種プログラム内容に呼応したコスト精査を行い、効率的な施策の推進を図った。
④ 公平性	A	本施策の効果は、町民全体に還元されることから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	各種プログラム内容の決定に当たっては、社会教育委員の会議のほか、町民要望等も取り入れながら各種事業を展開している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
芸術・文化活動の促進については、関係事業を効果的に進めてきたところであり、各文化団体による自主的な活動も行われていることから、引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
町民がより高い関心を持てる参加・体験型のプログラムなど、幅広い年齢層への多様な芸術・文化事業の提供を行うとともに、積極的な情報発信を継続していくものとする。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

## 第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	53
基本施策	14	芸術・文化の振興	評価 責任者	教育振興課長 澤田 朋朗
単位施策	3	新たな文化の創造		

### 1 施策の概要

基本方針	近代化遺産や産業技術、生活民芸品、アイヌ文化、更には趣味活動やエピソードに至るまで、これまで評価されていない潜在的な文化資源の発掘に努め、新たな文化資源として、活用します。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	これまで評価されていない潜在的な文化資源については、その発掘等の取組みがされていない状況にある。	これまで評価されていない潜在的な文化資源については、その発掘等の取組みがされていない状況にある。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	本町の文化の再発見を含めて、有形無形を問わない新たな文化資源の発掘により、住民の文化意識の向上が求められる。	本町の文化の再発見を含めて、有形無形を問わない新たな文化資源の発掘により、住民の文化意識の向上が求められる。

### 2 基本施策指標

指標 1	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 2	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 3	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 4	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 5	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 6	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 7	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	【再掲】郷土資料保存・展示調査事業	生涯教育係	0	C	継続/内容の見直し・変更	C
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	D	新たな文化の創造については、本町の地域文化の掘り起こしと住民の文化意識の向上の啓蒙が必要とされる施策ではあるが、その取組みが低い状況にある。
② 有効性	D	新たな文化の創造については、取組みが弱かったところがあり、今後有効な施策の推進を図る必要がある。
③ 効率性	D	新たな文化の創造についての施策を構成する事業展開が弱かったことから、今後効率性のある施策の展開を図る必要がある。
④ 公平性	D	本施策を構成する事業展開が弱かったため、公平性の評価について低いものとした。
⑤ 町民意見の反映	D	新たな文化の創造については、現段階で特に町民意見の反映を要しないものである。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直しすることが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
D	D	
新たな文化の創造については、直接的な取組みが弱かった面があるので、必要な見直しを行いつつ、施策目的に沿った展開を進めていくものとする。	同 左	

今後の方向性

継続/内容の見直し・変更	継続/内容の見直し・変更	
新たな文化の創造については、町民への啓発等をはじめとした関係する対応の検討を進め、郷土資料展示との関連性も併せ持つものであることから、潜在的な文化資源の発掘に努めていくものとする。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止